

# 自治研修あきた 発行 令和元年12月

No. 78 発行者 秋田県自治研修所

## 新規採用職員の奮起を期待する 秋田県自治研修所長 信田 隆善

年の瀬を迎え、早いもので令和元年もあとわずかとなった。

今年度計画していた研修も無事終了し、研修所では現在、来年度の研修がより充実したものとなるよう、予算策定作業と並行しながら実施した各科目の評価・効果測定や個別内容の検討、講師との調整や委託事業者の選定作業等を行っている。

研修メニューの中で、新規採用職員研修は最も重要な研修と位置付けており、今年度も県・市町村・県出資団体の300有余名の新採職員が受講した。

自分が入庁した頃は、東北・上越新幹線の開業などまだまだ明るい展望を抱いていた時代で、男ばかりの同期四十数名が新採研修に参加した。高清水にあった戦前建築の研修所は4人から6人の相部屋。朝のラジオ体操に始まり、公務員としての心構えなど様々な研修メニューをこなした後、川反方面へ遠征、そして門限ギリギリでの帰寮という毎日。就寝時間後も夜通し将来の夢を語り合ったことなどが懐かしく思い出される。

研修の開講時と閉講時は所長挨拶がお決まりだが、かつては「君たちを待ち受けているのは明るい未来」或いは「県民を引っ張るのは君達そのものの力」等々、イケイケどんどん的に職員を鼓舞していたと記憶しているが、あれから三十有余年の間に少子高齢化の波が想像以上に早いスピードで押し寄せてしまった。

自然と挨拶も「我々を取り巻く環境は益々厳しくなるが、様々な変化への対応力や個々の能力アップに務めるとともに、同期の仲間を大切にし困難に立ち向かってほしい」さらには「職場の先輩・上司に可愛がられること、また打たれ強くあること」、そして「研修所も皆を支援すること」と、力が入るものとなり、とにかく頑張ってもらいたいという気持ちで一杯であった。

さて新採研修は、前期は接遇を始め実務の基礎を理解することを中心に、後期では、これまでの体験を踏まえ、自分の仕事の位置付けや役割について考えたり、特に県職員については、福祉の現場体験を通じて弱者に対する配慮・支援について考えたりと、幅広い視野から行政サービスのあり方を考える内容となっている。また、研修の進め方も前期は一方的な講義が多かったが、後期は体験や議論によって受講者同士がそれぞれ考え、そこから気付きを得る手法としている。

兎にも角にもこの研修は、新採職員にとって自分のこれからの働く姿勢、身に付けるべきスキル等を考える機会となったのではないだろうか。今後も、上司・先輩の指導・助言を得ながら仕事を覚え、さらには能力開発研修への参加など自己研鑽に励み、一回りでも二回りでも大きく成長することを願っている。

人口減少と急速な高齢化が地域コミュニティの機能低下をもたらし、本県の活力維持が懸念されている中であって、秋田の明るい未来は若い人たちの活躍にかかっている。

研修を終え新採職員は、自他共に一人前の職員となった。これからの益々の奮起を期待したい。



# 研修ピックアップ①

ストレスと向き合いつつ、確実に1歩前進するために…

## 『レジリエンス向上研修』



### レジリエンスとは？

逆境やストレスに対する反応としての精神的回復力や自然的治癒力と定義されています。

生きていればストレスはつきもの。そんなストレスも、自分の強みを理解し、よりよい結果を得られる考え方を身につけた上で対処すれば、自身の成長にもつながります。

ストレスに立ち向かえる気持ちの作り方を学びませんか？

### こんな人に受けてほしい

- ◎日々前向きに過ごしたい
- ◎ストレスへの効果的な対処法を知りたい
- ◎自分の思っている理想の自分になりたい
- ◎自分や仲間を動かすための最適な言葉かけを知りたい

### 特徴的な内容

- ・自分の考えや思考の癖を知り、前を向く力を自分自身の中に見いだす演習が多くあります。
- ・なりたい理想を表現することで、言葉で自分を理解することができます。
- ・周囲の人のレジリエンス向上ために自分ができることも考えていきます。
- ・受講生同士のペアワーク、グループワークが多い研修スタイルです。
- ・全体発表は殆どありません。

### 今年度アンケートから

- ・自分のやる気のスイッチを入れる言葉を発見できた。
- ・自分の強みを知ることができた。性格を客観視できた。
- ・今の自分があるのは逆境を乗り越えたからと分かった。
- ・自分の経験や気持ちの持ち様で目の前にある困難は解決不可能ではないと気づいた。



## 研修ピックアップ②

一気に仕事が舞い込んだ！最善の仕事の進め方は、

### 『インバケットによる判断力向上研修』

#### インバケットとは？

インバケットとは、まだ決裁されていない書類が入った「未処理箱」を意味します。

制限された時間内に主人公（架空の会社のリーダーなど）の立場になりきり、お客様からのクレームや部下からの相談など、職場で起こりうるような案件を的確に、かつ迅速に、精度高く処理を行うことができるのかを測る、ビジネスシミュレーションゲームです。

#### こんな人に受けてほしい

- ◎業務の様々な問題に対し、自分の立場で迅速・的確に判断したい
- ◎物事の優先順位のつけ方、判断の基準が分からない
- ◎客観的に自分の強み・弱みを知りたい
- ◎上司・部下や関係者との良好な関わりを身に付けたい



#### 特徴的な内容

- ・ゲームは、「ハードな場面設定」や「無理な制限時間」で行うので、じっくり考える暇がなく反射的に処理をこなしていくことになります。素のままの自分の業務の進め方が現れます。
- ・判断の癖に気づくことができ、業務遂行時の強み・弱みを知ることができます。
- ・受講生同士のグループワークが中心の研修スタイルです。

#### 今年度アンケートから

- ・会議の目標達成の手順、説得する方法など、仕事で活用できると思う。
- ・各グループワークの時間が短く設定され、大変だったが、集中力が途切れずよかった。
- ・意思決定についての考え方として非常に有意義だと思った。
- ・インバケットの効果を実感できた。自分の実力を可視化できた。

## －研修所の本を読む－

自治研修所では新刊も含め、本を毎月10冊ほど購入しています。

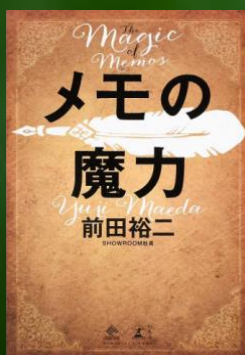
宿泊される方は、好きな本を宿泊室で読むこともできます。

研修所にお越しの際は、図書室をぜひご利用ください。

また、県職員対象に本を貸し出しています。本は職場にお届けします。

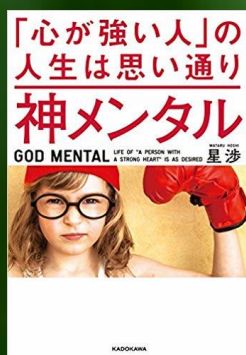
## －胸を打つ本たち－

貸出実績の多い本をご紹介します。(H31.4～R1.11)



番号 007-0140-1

誰にでもできるけど、誰もまだ、その魔力に気付いていない、「本当のメモの世界」へ…



番号 159-0318-1

強い心は科学的に作り出せる!仕事、お金、人間関係、目標達成に効果抜群!



番号 159-0328-1

仕事や日常生活でも常に自分らしく、本来の実力を発揮するための「緊張のとり方」実践集



番号 318-0846-1

チラシ、イベントポスター、HPなど、住民の反応がガラッと変わるデザインがわかる!

派遣研修中の県職員 2 名から、感想をいただきました。



## 自治大学校特別研修生（マネジメントコース）

秋田県自治研修所 主査 伴藤 崇

今年度、特別研修生として自治大学校に派遣されている伴藤と申します。本稿では、自治大学校のあらましや、特別研修生とは何ぞやといった話、そして今私が全国の仲間と受けている研修内容の一部を紹介します。

まず、自治大学校は、地方公務員に高度の研修を行う中央研修機関として、昭和 28 年 10 月に創立されました。創設時は港区麻布材木町の土地・建物を借りて開校され、その翌年に富士見校舎、昭和 36 年に麻布校舎となり、平成 15 年に立川市に移転しました。

立川市への移転は、東京一極集中是正を図ることを目的とした「多極分散型国土形成促進法」の「一省庁一機関の地方移転」に基づくものです。東京一極集中是正と聞くと、今現在の話かなと錯覚してしまいますが、この法律は昭和 63 年の法律です。

次に、特別研修生についてですが、通称、特研生です。マネジメントコースの研修生です。はい、全く分からないですよ。私も人事異動の内示を受けたときは、さっぱり分からなかったです。説明いたします。マネジメントコースとは、自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修（第 1 部課程等）を履修することにより、実践的で高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るものです。このため、年度末にはスーパー地方公務員になっていることが期待されます。なお、毎年 10 人弱が、特研生として自治

体から派遣されているようです。

自治大学校における実務についてですが、私は教務部に配属され、4 月から 9 月まで、研修課程の運営などをしておりました。講師の方々と連絡を取りながら、時間割の編成や講義前の準備や演習の段取りなどです。また、同じくらい重要な仕事が、研修生への連絡です。研修課程の細々としたことを、いかに理解しやすく、印象に残るように、といった感じでよく頭を悩ませました。

最後に、現在私が受講している研修内容の一部を紹介します。

10 月 9 日に基本法制 A 第 4 期がスタートしました。内容は、憲法、民法、行政法、地方自治制度、地方公務員制度、財政学です。ほとんど毎日 6 時限目まであり、朝 9 時半から夜 6 時半まで講義や演習漬けで、その後、予習や課題に取りかかるという感じでした。基本法制は、効果測定ということで、試験あるいはレポート課題が最後にあります。課目によっては、手書きのノートのみ試験会場に持込可であるため、試験数日前は、皆さん、自室や図書室などでひたすらテキストの重要部分をノートに写経します。私は、喫茶店のルノアールで 4 時間に渡る写経を二日間やりました。いやー、なかなか大変でしたね。そんな基本法制 A も 11 月 8 日に修了式を迎えました。

11 月 11 日からは、1 部課程第 133 期がスタートしております。1 部課程は、自治大学校の研修課程の中で、最長期間の研修です。基本法制との大きな違いは、政策立案能力の向上を図ることを目的とした、

公共政策科目（統計的思考と政策形成、社会調査の方法など）や演習（データ分析演習、事例演習など）、地方公共団体を巡る最新の話題（ソーシャルメディアと地方自治、自治体文化行政論など）があることです。まだ1部課程は始まったばかりなので、紹介はこの位にしておきます。

最後の最後に、これまでずっと勉強の話をしてきましたが、自治大学校の最大の魅力は、全国から集まってくる同期の研修生とのつながりです。研修生は皆同じ寮にいます。各階に談話室があり、勉強が一段落ついたときなど、夜は自然と談話室に集ま

ります。

写真は、同期の誕生日会の一コマです。



☆伴藤主査は、2列目右から3人目☆

## 東北六県中堅職員研修生

秋田県企画振興部総合政策課 主事 渡部 美月

宮城県富谷市にある東北自治研修所で、10月23日から2か月間の中堅職員研修に参加し、1か月が経とうとしています。この研修では、東北各地の県市町村の研修生と、寮生活をともにしながら、法律、財政、経済、政策形成等について、講義とグループ研究によって体系的に学びます。

私の参加する第205回では、研修生22名と、日々楽しく、勉強に交流に充実した時間を過ごしています。

研修は、幅広い科目で構成されていますが、どの科目についても、受講してみて感じることは、実際の業務での活用を見据えた実践的な内容が重視されているということです。

「法律科目」では、民法、行政法、地方自治法の分類があり、講義での基礎的な知識の習得だけでなく、具体的な事案の法

的解釈を検討するゼミ形式の授業などが重点的に行われています。私のゼミでは、情報公開請求に関する処分や、会計に関する支出、随意契約の適否などをテーマに、事前レポートを作成した上で、討議を行うこととなっています。事前レポートの作成にあたっては、条文はもちろん、複数の判例や関係書籍を調べて、自分なりの回答を導き出します。これがとても骨の折れる作業で、準備は夜間や休日に及ぶこともありますが、普段当たり前のように行っていた業務の法的な根拠に改めて気づかされ、また、公務員として、事業や処分を行う上で必要不可欠となる法的なものの見方を実例をもとに身につけられる非常に良い機会となっています。研修の後半では、条例制定などの政策法務の実習も行われる予定です。講師は、大学教授や弁護士の先生なので、日

常では触れることのない専門的なお話が聞けるのもとても興味深いです。



☆渡部主事は、2列目左から3人目☆

「政策形成科目」では、グループ研究を行います。政策形成のプロセスを演習で学び、現在は、グループ別で環境に関する政策提言に取り組んでいます。限られた時間で、これまでにない新たな政策を提案する難しさを感じながらも、チーム一体となって、理論的に学んだ手法の当てはめでなんとなく課題解決が見えてくることを実感したり、お互いの意見や考え方から学ぶ点も多いです。

「能力開発科目」では、プレゼンテーション演習も行いました。この講義は、すべての科目に先駆けて行われ、その後の研修全体を通して身に付けることが目標とされています。初回には、自分がプレゼンする様子を撮影した動画を再生しながら講評されるという、なかなか厳しい体験も経て、改善点を身にしみて実感することができました。その他、毎朝当番で行う3分間スピーチや、各科目での発表など人前で話す機会は多いです。公務員の仕事は、単に説明することではなく、それにより人の心を動

かし、政策を実現することだ、という講義の教えはもっともだと感じました。スピーチ上手な研修生たちからも勉強させてもらおうと思っています。

研修以外の時間では、課題に追われる日もありながら、研修生同士で和気藹々と過ごしています。各地域のおいしいお酒や名物を囲んでみたり、各県対抗の鍋パーティーを開催してみたり、地域の魅力があふれるPR合戦となっています。秋田チームも素敵なものをたくさん紹介したいと思います。また、近場の観光に出かけることもあり、松島の紅葉ライトアップは非常に幻想的で美しかったです。このような研修生との交流は、今後の公務員生活における貴重な財産となりそうですし、また、改めて我が秋田について考えるきっかけになっているようにも思います。



非公式ですが、この研修のモットーは「よく学べ、よく遊べ」とのことですので、後半戦もモットーを全うし、充実した研修生活が送れるよう取り組んで参りたいと思います。

